（平成29年）10月8日午後、長野市の善光寺から「国宝の本堂などに落書きがあった」と長野中央署に通報があった。落書きは本堂など5施設で見つかり、署は文化財保護法違反や器物損壊などの疑いで捜査を始めた。

署と善光寺が調べたところ、国宝の本堂、重要文化財の三門と経蔵のほか、仁王門と忠霊殿の柱や台座など少なくとも30カ所に、白いペンでバツ印などが落書きされていた。大きいもので12センチ四方程度。描かれてから、それほど時間がたっていないという。（信濃毎日新聞　平成29年10月9日朝刊より）

＊善光寺は６４４年の創建と伝えられ、現在の本堂は１７０７年に再建された古刹。

句の読みは「初しもや　夫婦杖つく　朝参」。句意は「初霜が降りる陰暦十月頃、老夫婦が杖をついて朝参りしている」です。画面右手に描かれた老夫婦の姿と二人をいたわるかのように振り返る若い女性の朝参りに心が温まります。

甫尺は、寛政七年（一七九五）春、吉野の花見をした後に善光寺参りをしました。残念ながら道中記は残っていませんが、善光寺参りの自画賛一巻を遺してくれました。右に掲げたのは、その巻子本の一部です。

＊

善光寺では日の出とともに本堂全山の僧侶が出仕して、「お朝事（あさじ）」と呼ばれる法要が三百六十五日欠かさず行われています。この前後、法要の導師を務める善光寺住職の大勧進貫主、大本願上人が本堂を往復する際、参道にひざまずく参拝者の頭を数珠でなで功徳を授けてくれる「お数珠頂戴」があります。

この儀式がいつから始まったのか判りませんが、甫尺は描いていませんので、江戸時代はまだ行われていなかったのかもしれません。

最近、残念なことに、善光寺で落書き事件がありました（右の囲み記事）。心ない悪戯に怒りを通り越して悲しくなりました。

＊

甫尺は、生没年未詳。三浦樗良に師事した俳人。樗良は、享保一四年（一七二九）に生まれ 安永九年（一七八〇）十一月十六日に他界。樗良は与謝蕪村（一七一六～八三）と交流したので、甫尺も蕪村と面識があったようです。甫尺は兄（吉田九郎右衛門）が没した後、その名を襲名、俳諧書肆も継いで、樗良の本を出版しています。